



Swan Lake

Contents

●ご挨拶 白鳥見なみ	1	●2022 年度 活動報告	12
●ご挨拶 白鳥五十鈴	2	●2023 年度 活動予定	12
●「楽しい劇場へようこそ」 Vol.2 報告	3	●後援会について	13
●メメント・ヴィータ 藤原新也	7	●「美しき神々の舞」報告	17
●発表会	11	●白鳥バレエ案内	18

スワンレイク
Vol.8
Issued in
July 2023



Minami Shiratori

30周年には、世界の金賞バレリーノがパリに集まり金冠に輝いた世界一のミッシェル・ブリュエル氏とポーランド国立劇場第一舞踊手のジスワス・スィオロー氏を招き(初来日が鹿児島)鹿児島のパレリーナも力を得て素晴らしい舞台になり、評論家諸氏に「白眉」だったと評価された『ジゼル』全幕でした。(「白鳥の湖」と並ぶバレエの代表作品)これも、鹿児島の文化を高めようと力を貸して下さった後援会の皆様の御陰様でございます。

40周年『平家物語』は、20周年の『ヤマトタケル』(全国初の地方からの文化庁芸術祭参加東京公演)に次ぐ、3度目の文化庁芸術祭参加を果たし「ブラボー」の代わりに「よかどー」と劇場内に響き渡り、鹿児島出身の方々に喜んで頂いた事が、創り踊る私には、とても嬉しゅうございました。

50周年は、長く続けていたロシアとの文化交流として、ロシアスターズバレエとのジョイント公演『ロミオとジュリエット』主演を白鳥五十鈴、ドミトリー・スミルノフで上演。白鳥五十鈴が、ロシアスターズバレエのプリマとして九州を廻ろうと芸術監督がおっしゃって下さった程の作品の出来でした。

60周年、70周年は『平家物語』を上演。有難い事に皆様に感動して頂きました。そして、「日本には、こういう作品は無いから日本での公演はもういいから海外に持って行って下さい」と評論家の先生方が、口を揃えて言って下さっております。「先生方、御一緒に行ってくださいね」とお約束をしていましたのに、昨年次々に他界なさってしまいました。とても残念ではございますが、お約束を果たすために実現に向けて準備をしようと思っております。

皆様の心からの御後援に感謝申し上げ6月8日の阿久根から始まる鹿児島県巡回公演に向け頑張っ参ります。鹿児島の皆様に観て喜んで戴き、感動して下さる様な作品をこれからも創れる様、また鹿児島の文化向上に役立つ様、活動して参りたいと存じます。皆様コロナ禍を無事でお過ごし程お祈り申し上げます。

白鳥見なみ

ご挨拶

73回目の舞台「楽しい劇場へようこそ」Vol.2を無事終了し、次の75周年の公演を想い描き、以前の公演を振り返ってみました。

20周年、30周年、40周年、50周年、60周年、70周年と残っている映像を見ながら振り返りますと、全て後援会の皆様の御支援により元気を頂きバレエ団一同、思いもよらない力が湧き、歴史を刻み、思わず鹿児島県の為に力になれた事(50年の長きになりますが、鹿児島県内、学校巡回公演他、海外公演、東京、大阪、九州七県公演等)続けられた事等、御後援の有難さを深く感謝致しております。

73周年の公演は、コロナ禍に上演致しました公演でございましたが、観客の皆様大変喜んで楽しんで頂き有難い事でございます。

また、30周年の祝宴の席で30人の発起人の方達と話し合い会長を鹿児島銀行の鷹野頭取様(当時)にお願いしようという事になりましたと、南日本新聞社の川越正則社長様(当時)が御発言下さいましたのが、白鳥バレエ後援会の始まりでした。

初代会長を鷹野頭取様、次期会長を大野頭取様、そして現会長を津曲貞利様に務めて頂いて居ります。

白鳥 見なみ

白鳥バレエ 主宰・芸術監督／公益社団法人日本バレエ協会九州南支部 初代支部長・現相談役／鹿児島県バレエ協会 会長／鹿児島県文化芸術振興審議会委員

【受賞歴】1976年全日本舞踊功績賞、1977年第1回鹿児島県芸術文化奨励賞、1989年MBC賞、1991年橘秋子賞功労賞、1992年南日本文化賞、2003年地域文化功労者文部科学大臣表彰、2004年鹿児島県民表彰、2008年日本バレエ協会舞踊文化功労賞、2018年日本バレエ協会第1回指導者特別賞

Tsuzuru Shiratori



© ばび

年が明け、2本の大仕事を終えた私は、来年の75周年のために、リセットや振り返りの時を経て、次なるインプットに腰を据えなければ……と思って居た4月初め、坂本龍一氏の訃報を知る。独特の切ない音世界にどっぷり浸かった若い時代を過ごした私は、尊敬する同時代の芸術家の訃報は、思いのほかショックであった。世界で名をとどろかせた映画音楽の巨匠が、自分の生の時間の限界を感じた時に何を残すのだろうか？と最期となった演奏に1人耳を傾けた。静かな佇まいながら、水の波紋のように心に広がる響き・全てのピアノの音が坂本氏本人から染み出るかのような静謐な演奏だった。

コロナが蔓延し始めた2020年、私は「婦人画報」(7月号)に執筆されていた坂本氏のコラムを読んだことがある。そのコラムによると、

「新型コロナウイルスにより、僕たちは、生命の根幹を揺さぶられるような事態に直面している。アートや音楽など、文化も相当なダメージを受けている。けれども、長い歴史でみれば、人類は何度もこうした絶滅の危機に瀕していたが、その間、一度たりともアートや音楽や詩といった文化を手放すことはなかった。僕は、アーティスト、表現者のひとりとして、人間が生きていく限り、その根源的な活動である文化や芸術は無くならないという確信がある。」と。

「先日、アメリカの作家、スティーブン・キングもこんなことをtwitterで呟いていた。もしアーティストが役に立たないと思うなら、この隔離生活を音楽、本、詩、映画、絵画なしで過ごしてみるといい」と、そんなことが耐えられるだろうか？クリエイティブな発想というのは「失われている」状態から生まれてくるものだ。「失う」ということが実はとても大切なのだ。欠乏しているからこそ、人は何かをつくらうとする。ものが豊かで情報があふれていると、クリエイティビティは生まれてこない。行動の自由を奪われている状態というのは、逆に非常に想像力が働くものだ。制限されているということは、大きなクリ

エーションのステップにもなる。これは、表現だけに限らず、経済や産業の世界でも同じことがいえるだろう。コロナが収束すれば、元の状態に戻ろうとする力がより強く働くと思うが、この教訓が無駄にならないよう、新しいライフスタイルにシフトしていくことが、これからの世界の命題だと思う。

「失うことから、また全ては始まっていくのだ。」

私が力を得た言葉たちだった。彼もまた何かを追い求め、欠乏し、心に残る音を、魂を震わせながら生んできたのだろう。

私が、2020年コロナがつかの間取まったかのように思われた4月、創作し踊らせて頂いた「遠藤彰子展」での楽曲リストの中に、坂本龍一氏の音源を2曲使わせて頂いた。展覧会のテーマである「魂の旅」に大きく重なる楽曲だったからだ。こう考えると、感動の連鎖が私の表現を作っている。

これから来年の75周年へ向け、私の中にはまた、イメージのパーツが、バラバラのパズルのように散らばっているが、今を生きて、融合を目指して、未だ見たことの無いステージを日々追い求めて…

白鳥五十鈴

白鳥 五十鈴

白鳥バレエ団長・プリマバレリーナ

公益社団法人日本バレエ協会九州南支部 運営委員/鹿児島県バレエ協会 副会長/ロシア・ポリショイバレエ学校 マスタークラス修了

【受賞歴】2008年 かぎん文化財団賞、2017年 鹿児島県芸術文化奨励賞

楽しい劇場へようこそ

vol.2

鹿児島県バレエ協会創立50周年記念
白鳥バレエ公演2023



無事終演！

バレエにいろいろな切り口で親しんでいただくための企画「楽しい劇場へようこそ vol.2」が1月28日に上演いたしました。2019年、70周年記念公演「平家物語」から3年ぶりとなった本公演は、クラシックバレエの名場面と新作「メメント・ヴィータ」を含む3部構成での公演となり、舞台の裏側の臨場

感を伝える新しい試みを実現いたしました。第2部最後の演目として予定していた白鳥見なみの「バラの精」は開演直後の怪我によりドクターストップがかかり上演できませんでした。幸い怪我は軽く、現在は世界規模の夢を語り、指導に復帰しております。大変ご心配をおかけいたしました。



白鳥バレエ、その名は、東京でもその名前と活動は知られ、鹿児島で圧倒的な存在価値を発揮するバレエ団である。日本中に門下生を輩出した谷桃子バレエ団で谷桃子のパートナーを20年間務めた父、小林恭も白鳥見なみ女史のパートナーとして招かれ、様々な芸術性の高い舞台を白鳥みなみ女史の指示の下創り上げたようだ。時は流れ現在はその突出した芸術性を引き継いだ白鳥五十鈴先生が二代目としても活動され親子二人で素晴らしい活動をされています。1月に開催された舞台「楽しい舞台へようこそ2」では、舞台の楽しさを知り、劇場に気軽に足を運んでもらえるように企画されたものでした。3部構成の舞台は、歴史を辿る旅から始まり振付家（芸術家）とダンサーの関係性をベトルーシュカと言う名作に例え、この現代においても古典を上演する意義を強くアピールし、観ている者に強いインパクトを与えたと感じました。2部では白鳥バレエ団のお弟子さんや生徒によるパフォーマンス。上品な生徒達が美しく踊られていました。

昨日は素晴らしい素晴らしい舞台がありありがとうございました。見なみ先生のお具合はいかがですか？心配です。昨日は、構成、照明、振付、音楽、みなさんの熱意、技術、全て素晴らしかったです。感動しました。五十鈴先生の色々なお顔も見られて、最後は可愛い一っつて叫びました！もし、昨日の舞台全幕 DVD 発売されたら絶対買います！！お知らせくださいね。本当にありがとうございました。

お母様、大丈夫でしょうか。一番残念なのは、見なみさんご本人でしょう。「幻の舞台」となりましたが、次を楽しみにしております。それにしても、メメント・ヴィータは素晴らしかったです。藤原新也さんの件でお会いしたのは、昨年11月末でしたよね。それからわずかな時間でここまで創り上げるとは、さすがです。今日は観られてよかった。楽しい劇場、本当にありがとうございました。

お疲れ様でした。見なみ先生のご容態がわからずコミットメントは控えました。団長のコミットを聞きひと安心です。「メメント・ヴィータ」団長の伝えたかった世界観は、芸術的過ぎて、何回も何回も振り返ってみる事でした。こんなに余韻を残す公演は初めてです。しかも1,000人近い観客。間違いなく鹿児島の舞台芸術の金字塔に刻まれるでしょう。ありがとうございました。

これぞ白鳥という華やかで美しさもありながら特に第3部は、こんなに身を乗り出して見入ったのは近年ないほど心を鷲掴みに魅了させられました。生きる事の痛々しいほどの狂おしいほどの愛おしさ喜び希望全てが現れていて感動でした。五十鈴先生、素晴らしかったです。本当のお疲れ様でした。見なみ先生、心配していましたが、奇跡の不死鳥の復活を心より祈り楽しみにしています。



Theater Review

またこの舞台の大きな魅力でもたあったそして白鳥見なみ女史が舞台に立つと言う意味でも特別な舞台となりました。急なアクシデントがあり出演は叶いませんでしたがリハーサルでは年齢を一切感じさせないコントロールされた身体は現役クラシックバレエのダンサーの肉体そのものでありました。しかしこの舞台の最大の見せ場は3部であり、古典バレエの枠にとらわれず総合芸術と呼ぶにふさわしい作品を白鳥五十鈴先生が創作されました。生命と平和をテーマにした作品で現代社会で繰り返し起こる悲劇に対しても問題提議を音楽、唄、声、音、照明、映像、踊りが融合されたクオリティの高い舞台芸術を鹿児島と言う地で体験するとは正直思いませんでした。白鳥五十鈴と言う一流の芸術家の感性が炸裂した舞台に出演者として立ち会えた事はとても貴重な体験だったと感じております。鹿児島の地が更に発展し、白鳥バレエもさらなる飛躍を遂げられ鹿児島の地に留まらず九州、東京でも活動が出来ます事を強く願いお礼の文章とさせていただきます。

小林 貫太 (小林恭バレエ団代表)



東京の私大を卒業した52年前、阿久根の田舎に帰って家業を継ぎました。東京の活力・華やかさ・豪華さ・明るさが忘れられず毎年5~10回は遊び?がてら上京しています。バレエ観劇も普段の田舎の生活で得られない都会感に浸れて満足できるような気がします。まったくの門外漢ながら2部3部には、バレエの素晴らしさを感じました。可能なら阿久根のような県内各地での公演を期待します。

私はバレエに全く無縁でした…が、以前初めて「平家物語」を拝見し、この度「楽しい劇場へようこそ」に接し、完全に白鳥バレエのファンになりました。そして第3部のメメント・ヴィータで感動MAXでした！見なみ先生の復活にはまたお伺いしたいと！バレエによる表現の可能性とその深さ、しなやかさを知りました…。

私は舞台当日、みなみ先生の事故を、暗闇の中の音で気がきました。前列にいた女性の方が、先生を舞台袖まで案内されたのですが、みなみ先生からは痛がる様子を全く見受けられませんでした。舞台上上がる一心で、身体が動いていらっしゃるんだな、と先生の表情から、その時、物凄い気迫を感じました。それからの皆さんの踊り。特にメメント・ヴィータ、生命力溢れる皆さんの踊りから、この一瞬を生きていることの喜び、感謝、素晴らしさ、また新たな活力を、どれほど頂けたことか。観客一人一人の心にエネルギーを注ぐ舞台の素晴らしさ。観ていてとてもとても感動いたしました。みなみ先生の一日も早いご回復をお祈りしますと共に、五十鈴先生、大変だとは思いますが、私達も微力ながらお支えしたいと思っておりますので、また新しい舞台を観れること、一緒に作り上げることを楽しみにしております

今色々な事が頭をよぎっていると思い

楽しい劇場へようこそ

vol.2

鹿児島県バレエ協会創立50周年記念
白鳥バレエ公演2023

第3部「メメント・ヴィータ」忙しい世界



第1部クラシックバレエの世界へ





バードソング



美しさとは…



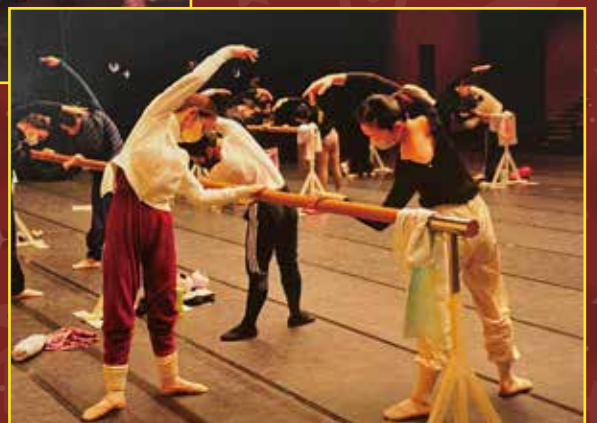
カーテンコール



終演後舞台裏

「楽しい劇場へようこそ」Vol.2 メディア取材情報

- ・ 12月23日 (火) 朝日新聞
- ・ 12月30日 (金) KTS 鹿児島テレビ「FNN ニュース」
- ・ 1月 5日 (木) MBC 南日本放送「かごしま4」
- ・ 1月17日 (火) MBC ラジオ「青だよ!たくちゃん」
- ・ 1月19日 (木) KTS 鹿児島テレビ「かごnew」
- ・ 1月24日 (火) MBC 南日本放送「かごしま4」
- ・ 2月 1日 (水) MBC 南日本放送「かごしま4」
- ・ 2月 3日 (金) KTS 鹿児島テレビ「かごnew」
- ・ 2月 5日 (日) 南日本新聞



Memento Vita

生を想え メメント・ヴィータ

「楽しい劇場へようこそ」Vol.2で、「メメント・ヴィータ～生を想え～」というテーマでバレエ作品にしたいという私の身の程知らずな申し出を許可して下さった藤原新也さん。他にも藤原さんの感性から発せられる数々の哲学、表現に触れ、たくさんの学びや気づきがありました。こちらは、その藤原新也さんの1月21日に話されたファンに向けたクローズドなオフ会での講話を許可を得て書き起こしたものの一部です。

世田谷美術館 藤原新也「祈り」展での講演会より

3年間コロナ漬だからね。

いい加減、食傷してんだけど全世界の大イベントでね…大きな災いなんだけど、地球をくるんだ大イベントだよ。ねこれは。こんなことはかつて、おそらく100年単位でも無かったわけだよ。だからある意味、非常に稀有なイベントを僕らは体験しているわけだよ。

発症して重症化して、下手したら死ぬ。みたいな、その危機感みたいなものを皆持っているんだけど、表現者っていうものにとっては、ものすごく興味深いんだよ。100年200年に1度あるかないかみたいなことだから。いろんな世代の人が、生まれてきて戦後80年近い中で、この世代だけが体験してんだよ。そういう意味では「これは、おもしろい。」とそういうのが、どっかに僕の場合あるんだな。「いったいこれは何なんだ」とそれが表現者だと思うんだな。

何かぶち合った時に…「**接触**」だよな。

一人と接触した。

一ある出来事と出会った。とか

そういうものは全部ね「**果報**」。果報は寝て待ての「果報」ね。全て果報なんだよね。いかにマイナス的なことであろうと、危ないことであろうと、やばいことであろうと悪条件であろうと、全て「果報」なんだよね。それを果報にするか、自分の「一」として受け取ってしまうか。その個人次第なんだね。

僕の「メメント・モリ」で書いた。「どちらに行けば地獄でしょうか？どちらに行けば極楽でしょうか？」とある。

あなたの思った通りになる…というばあさんの言葉があるじゃない？これはね、今のコロナ時代にももの凄く必

要なばあさんの言葉なんだよね。

「あなたの思った通りになる」って地獄に行く人もいるんだよ。極楽に行く人もいるんだよ。この分かれ道、凄いよね。そして今、このコロナ時代では、まあ地獄とまでは言わないけどもそちらの土穴をずーっと踏みつつある人が多い。

二人の天国と地獄の例を語る

(人との接触を断った男と、人と会うことをやめなかったとある男の話。)

かたや、やせ細って死人みたいになってる、安全かもしれないけど、地獄の方を選んだ。もう片方は、10年前とまったく変わらず元気になってる。それ、もの凄く難しいよね。

当然リスクがある。リスクを覚悟で人と会う。そうすると元気になる。コロナを恐れて人と会わないで籠る。どちらを選択するか、というのを求められてる時代なわけこの二人の両極は不思議なことだよ。

なぜ？って。仮に一つのメディアにしても、二次的なメディア、直のメディア、更に空間を共有するようなメディア。という風に、接触のあり方が違うんだな。

今回の展覧会でも結構 twitter とか instagram とか見ると「体が震えて涙が出た」とかそういう人も結構いるんだよ。空間に入って(写真と)接触している過程で、ある種の体験に変わってんだね途中で。

言葉も写真も絵も書も体験するという形で最後の方にいくと、一つの大きな藤原新也が体験したのと同じようなことを体で受け取って出ていくと。

そこでは、人間の命がざわめいている… 生命を活性化するという意味では、様々な段階の接触の仕方があって、その接触の仕方によって得る生命力って段階的に異なるわけだ。

一番の果報ってというのは、面と向かって肉体と肉体が向かい合うっていう。これが一番最高の「ご馳走」っていうか、「ご馳走」をずっと皆食ってきたんだけど、食っちゃいけないって時代になってる。

猿のはなし～接触と生命～

房総の猿のはなし。猿が40年50年前から出沒してた最初は、もの凄い大集団だった。最近では、1匹とか出てくる小所帯。

これは何なんだろうと考えてて。自然の木が、非常に疲弊してきている。(クヌギ) かつてもの凄い樹液を産出して夜になるワーンと甘い香りして、行ってみるとカブトムシがワーンと集まってそこで交尾してるとか。もの凄い生命のるつぼみたいな世界が展開してたわけよ。

生命の源を形作る植物や海なども疲弊していつてるから、当然木の実も減っているんだね。ある木は、一切実をつけない場合もある。毎年実をつけてたものが。基本的に食物が減ってんだな。それで、結局集団化するとほら、食っていけないわけよ。分散化しないとね。

自然の環境破壊によって生まれた猿の分散化っていうのが起きてて、あるところで、面白い文献があって、イギリスかアメリカの研究チームがタンザニアのチンパンジーの研究をしたところ、猿が集団化する場合と少数化する場合がある。

集団化した猿の腸内細胞層（腸内フローラ）と少数化した猿の腸内細胞層を調べてみると。集団化した猿の方が、腸内フローラが豊かで、病気になりにくく元気。少数化した猿の方は、腸内フローラはやせ細っていつて病気になりやすくなっている。

これは、何かというところと集団化するってことは接触率が増えるわけだね。グルーミングだとか、糞がついたりだとか、セックスの回数が増えるとかね。セックスも最大の



「接触」だからね。

接触によって細菌の交換がおきるわけだね。そしたら、腸内細菌層がもの凄く豊かになっていくと。細菌というものが、いかに人間を支えているかというのを昨今言われてきているんだけど、やっぱり最終的には**リスクを背負って最大接触**していくという。それが俺の結論だね。

それでこれ、コロナに感染して発症して重症化して、時には死ぬというのは、これはまあ淘汰だから仕方がない。

それともう一つは、**腸と脳はそっくりじゃない？**

最近言われつつあるんだけど、オオカミの集団がいる。そして、その中でリーダーになるオオカミがいるんだね。何で同じ個体なのに、なぜこのオオカミがリーダーになるのか？ 学術的には不思議だったらしいのね。そのリーダーになるオオカミは、ある細菌に感染しているらしい。「トキソプラズマ」という細菌に感染したオオカミは、リーダーになる率が非常に高まるらしい。

これは、人間にもあるらしくトキソプラズマに感染したネズミは猫を恐れなくなるとかね。

細菌というのはね、脳ともの凄く関係があるんだね。脳と腸というのはもの凄く似た構造をしているということは、脳内のトキソプラズマという細菌が脳に影響を及ぼして行動形態を変えていくことからすれば、腸内細菌層っていうのは一筋縄でない。

これはねえ、ある意味で人間の健康を支配し、さらには人間の行動形態、感情だとか、そういうものまで支配しているわけで、ということは、今そのコロナ時代で接触が減っていつて腸内細菌層がどんどん減退していつてことは、当然脳も減退していくわけだよ。これパラレルだから。

接触と脳～ニューロン～

じゃあ、接触によって脳の構造なり反応みたいのはどんなことになってんのか。



写真集見て受けたバイブレーションと、写真展見て受けたバイブレーション全く違う。体験率もどんどん変わっていく。それは、どこにその違いがあるかっていうと脳は、神経の塊りでしょ!!

ニューロン！膨大なニューロンの塊り。

人間は目耳鼻口、五感によって接触した時に何かを感じた時に、ニューロンが反応するわけだね。ニューロンの反応するスケールていうか強さっていうか強弱って言うのは、これさっき言った

写真集見た時のニューロンの反応の仕方。

写真展見た時のニューロンの反応の仕方。

全然違うと思うんだよ。あの「蓮」バーンと展示したのを見たと思うけど、あの蓮の花を眼前に見た時のニューロンの反応の仕方は、全然違うと思うんだよ。

だからあの蓮の花をなぜあんだけ（3m四方）でかくしたかと言うと、自分のニューロンがあんだけ反応したということなの。



蓮の花の撮影の時

朝方、朝の暗いうちから行って、もう目を付けていた蓮のところに水につかってジーと待ってて、ぼんやりこう朝が明けてきて、光がスーッとまわり始めた時の蓮。これ動くのが分かるのよね。

霧が晴れてね、あの花についている水滴は、霧なんだよ。雨じゃなくて。霧が晴れた後についたものが水滴化しているのが、あの蓮の花の写真。ものすごい緻密な水滴でしょ。あれが雨だったらあんなにはならない。あれ絶妙な蓮の花で。その蓮を見たときの大ききさってのがあれな

んだよ（3m大）

大きいてのはね、人間はもう社会的動物になると全て定型的なものを見方をし始めるわけよね。俺の場合は、もう写真の世界に入るともう完全にとんじゃってるから。大きさ関係ないわけだ。

アリンコでもでかく見えるし、目の前の人間も小さく見えたりするし、それはもう存在のこのアウラっていうかな。そういうものによって、でかく見えたり小さく見えたり。

もうちょっとでかくねー、

6mくらいに見えたんだよ俺はね。だけど、それは無理でしょ6mは。それで3mにしたんだけど、色んな大きさの写真があるでしょ。「祈り」展の。俺が見えたとおりの大きさにしてるわけ。

そういう意味でおそらく写真集で見た場合と会場に入ってきてこの3mのライティングした蓮の花を見た場合。これはニューロンの振れが違うんだよね。（ニューロンの）光り具合が。で、更に言えば、俺が現場で蓮の花を見た時に反応した自分のニューロンで凄い発光してるの。

対照のあり方。自分の気持ち。全て含めた上で、どの程度反応してるか… その差違が出てくる。

おもしろいことにね。ニューロンというのは、孤立しているわけだね。でそれが発光した時に…何かを見たとか、匂ったとか、触ったとか

ニューロンが揺らいと、発光したと… で、それはね、デジタル世界で“1”と“0”じゃない。あるかないか。

ニューロンもそれに似ててね。一定の刺激がないと“0”になっちゃうんだ。である刺激を超えると、それは“1”になって軸索を通して次のニューロンに伝達していくという。ニューロンの在り方が、生命としては動き始めるわけよね。

ある対照によって自分のニューロンが揺らいと。今、コロナ時代の中では、恐らく体験がね、スッと消える。“0”になるという。元の本阿弥っていうのかな。そういうことが生じてると思う。

ニューロンが発光して軸索を通して、次のニューロンに伝達して、それが感情に行って、更に記憶に行くと。記憶っていうのは、単なる記憶じゃなくて記憶によって、またそれをフィードバックして、生きる力、行動力になるわけだね。

感情記憶、記憶がまた引き出されて、経験値というのになって、自分の行動を決めていく。というある種のひじょうに健康な循環があるわけじゃない。でそれが、体験の一つのもの凄いな冥利だね。体験することによって、自分の身体だとか、心だとか精神が変わっていくというか。

まあそういう意味では、蓮の花一つとってもね。あの蓮一つが、自分の体感になって感情になって、記憶になって、フィードバックして自分の行動に移る。みたいなことになってくると思うんだね。

そういう意味ではね、この接触しない時代、これが今、人間の生死を分けてんだね。生命の生死を。

興味を持ってるのは、腸内細菌層、腸内フローラ、もう一つは、脳内フローラ。脳内フローラという言葉は無いんだけど、俺は、今、つけてるわけだ。腸内フローラと脳内フローラの循環だよ。でそれは、俺自体が写真やったり、現実と接触することで、生きてきたことによって生まれた意識、思想っていうか。そういう意味ではね。

この今まで思ってもみなかったこと、考えがね、いろんな閃きが生じるというのは、コロナ時代だったからこそなんだよね。

人間の構造っていうのか、あーこうなんだっていう。これも一つの果報でね。そういうリスクな時代に生きながら逆にそれによって人間を理解していく、「あーこうなんだ」と。そう好奇心をねえ。まあそれも生命力だと思うんだけど、そういうものを持って欲しいんだよね!!

そうすと、体も元気になるし、ニューロンも発光して“0”に行かなくて、次に伝達していくという。それが感情になって記憶化してまた行動に結びつくという循環だよ。学者も分かんなくなってるけど(苦笑)。

コロナに関しても、一介の作家でありまあ思考家の藤原新也がコロナを観測するとういう風になるわけよね。

非接触の後遺症

ここまで来た100人のクルーは、今俺の話聞いて、生き方の原点を知ったわけじゃない。でも、コロナ後遺症という言い方もあるんだけど、こういう非接触の生活形態ね。

腸内細菌層、腸内フローラ、脳内細菌層、脳内フローラを活用していない時代。これが3年続いている。4年続いか5年続かわかんない。これはね、後遺症が必ず来ると思っている。今の「生活形態」による後遺症ね！今もう既に表れてるわけだから。身体みんなしぼんでいっている。だけどこれは後遺症ってあとから来るんだ。あとの方がきついわけよ。だから今やらないと後遺症は、3年後4年後5年後出てくるかもしれない。だからもうギリギリかもしれない。

だから多少リスクを背負っても生命の原点みたいなのをいかに活性化していくか、自分なりの方法論だよ。それを今やらないと、まあ5年後10年後というのは、どうなるのかなってのは、それはあるよね。



藤原新也

1944年に福岡県門司市(現北九州市)に生まれた藤原新也。東京藝術大学在学中に旅したインドを皮切りに、アジア各地を旅し、写真とエッセイによる『インド放浪』、『西藏(チベット)放浪』、『逍遥遊記(しょうようゆうき)』を発表します。1983年に出版された単行本『東京漂流』はベストセラーとなり、社会に衝撃を与えます。また同年に発表された『メメント・モリ』は、若者たちのバイブルとなりました。1989年には、アメリカを起点に西欧へと足をのぼし、帰国後は自身の少年時代を過ごした門司港で撮影した『少年の港』をはじめ、日本にカメラを向けます。そして旅のはじまりから50年後、現代の殺伐を伝えるニュースを背に、大震災直後の東北を歩き、コロナで無人となった街に立って、これまでの道程と根幹に流れる人への思いを「祈り」というタイトルに込めます。そして藤原の見た、人が生き、やがて死へと向かうさまは、現在形の〈メメント・モリ(死を想え)〉へと昇華され、新たな姿でわたしたちの「いま」を照らします。藤原の表現活動で特筆すべきは、写真、文筆、絵画、書とあらゆるメディアを縦横無尽に横断し、それぞれの領域において秀でた表現を獲得していることにあります。

第3回木村伊兵衛写真賞、第23回毎日芸術賞を受賞。著書に「全東洋街道」「東京漂流」「メメント・モリ」「アメリカ」「渋谷」「コスモスの影にはいつも誰かが隠れている」「日々の一滴」など。写真集に「少年の港」「千年少女」「花音女」「神の島沖ノ島」(著書)などがある。2022年「祈り」出版。

73th Regular Recital

第73回 白鳥バレエ定期発表会 2022年8月21日



2023年度 活動予定

Schedule

今年度の主たる活動予定は以下のスケジュールとなります。
新型コロナウイルス感染症が5類の感染症に移行されてようやく落ち着いた感があり、今後も芸術文化を絶やさないためにも前向きに活動をしていく所存です。

■みんな初めてのプレバレエ体験会

- [5月7日(日)] 白鳥バレエ本部 照国スタジオ

■青少年のための芸術鑑賞事業 鹿児島県内巡回公演

- [6月8日(木)] 風テラスあくね(阿久根中・鶴川内中・三笠中)
- [6月19日(月)] 伊佐市立羽月小学校
- [6月20日(火)] 鹿児島県立牧之原特別支援学校

■Kバレエカンパニー バレエマスター講習会

- [7月8日(土)・9日(日)] 会場:白鳥バレエ 照国スタジオ

■後援会交流の夕べ

- [7月27日(木)] 会場:城山ホテル鹿児島

■第74回白鳥バレエ定期発表会

- [8月20日(日)] 会場:宝山ホール(鹿児島市民文化ホール)

■白鳥バレエ学校公演 芸術家派遣プロジェクト

- [10月19日(木)] 会場:鹿児島市立伊敷台中学校



2022年度活動歴

Activity Report

■体験会 [5月8日(日)] 白鳥バレエ本部照国スタジオ

- 志学館大学共通教育科目 恋愛論「バレエと恋愛」 [5月12日(木)]
会場:志学館大学40周年会館1階 6101教室 講師:白鳥五十鈴

■鹿児島北ロータリー卓話 [6月9日(木)]

- 会場:アートホテル鹿児島 講師:白鳥五十鈴

■令和4年度 青少年のための芸術鑑賞事業

- 会場:鹿児島県立鹿児島養護学校 [6月20日(月)]
鑑賞者:98名
(幼稚部15名・小学部12名・中学部10名・高等部7名・職員54名)
- 会場:鹿児島県立串木野養護学校 [7月5日(火)]
鑑賞者:90名(小学部18名・中学部16名・高等部21名・職員35名)
- 会場:志学館学園志学館中等部 [11月30日(木)]
鑑賞者:258名(中等部全校生徒228名・職員30名)

■第73回 白鳥バレエ定期発表会 [8月21日(日)]

- 会場:川商ホール 第1

■芸術家派遣プロジェクト 鹿児島市学校公演 [10月8日(土)]

- 会場:鹿児島市立草牟田小学校
- 1部(舞台鑑賞):250名(小学4年生以上)
- 2部(ワークショップ):250名(小学3年生以下)

■後援会交流の夕べ [12月14日(水)]

- 会場:山形屋7階 山形屋食堂

■白鳥バレエ Christmas Party 2022 [12月24日(土)]

- 会場:鹿児島サンロイヤルホテル

■(公社)日本バレエ協会九州南支部「コンテンポラリー講習会」

- [12月26日~27日]
会場:川商ホール 中練習室

■白鳥バレエ公演 2023「楽しい劇場へようこそ」Vol.2 [1月28日(土)]

- 会場:川商ホール 第1



後援会のご案内



白鳥バレエは1949年に白鳥見なみ先生が白鳥会として設立され、その後、白鳥見なみ先生と、その後継者であるご息女白鳥五十鈴先生の卓越した指導力と熱心な研鑽により、これまで4度にわたって文化庁芸術祭に参加されるなど全国的なレベルに達しておられ、郷土鹿児島県の文化振興に、多大な功績を残されております。

そこで、創立74周年を迎えた白鳥バレエのさらなる発展を願いつつ、益々質の高いバレエがこの鹿児島県の地において鑑賞いただけるよう。これからも物心両面から、可能な限りの支援を行いと考えております。つきましては、皆様方のご理解とご協力を頂きたくご案内申し上げます。

白鳥バレエ後援会 会長 津曲 貞利

【会員の種類と会費】

○団体会員 年会費 一口 20,000円 ○個人会員 年会費 一口 5,000円

【会員特典】

- ①隔年の本公演チケットをSS席にてご招待、もしくは特別割引致します。(会員の種別、口数に応じた枚数)
- ②追加チケットの先行予約
- ③毎年の定期発表会のご招待
- ④年に一度の交流イベントのご案内。バレエ文化を盛り上げるための交流会を毎年企画しています
- ⑤会報「Swan Lake」の発行
- ⑥関連イベント、キャンペーン等のご案内
- ⑦プログラムにご芳名、会社名を記載させていただきます。(匿名希望の方はお申し付け下さい。)

【問い合わせと手続き】

本会への入会を希望される方は、別添の書類に必要事項をご記入の上、事務局へお送り下さい。後援会会費につきましては所定の用紙にご記入の上、ご送金下さい。(※ホームページの問い合わせ画面からの送付も可能です。)





※鹿児島トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長：諏訪秀治



※令和4年11月 交流の夕べ

振込先

[金融機関] 鹿児島銀行 高見馬場支店 [振込口座] 普通 3021817
[口座名義] 白鳥バレエ後援会 会長 津曲 貞利

問合せ

白鳥バレエ後援会事務局 〒892-0841 鹿児島市照国町 12-12 2F
TEL : 099-222-6536 / FAX : 099-213-9987

【後援会役員】

令和5年6月現在

会 長 津曲 貞利
 名誉会長 大野 芳雄
 名誉顧問 海江田 順三郎
 理 事 秋葉 重登／飯山 英一／岩田 英明／岩元 修士／玉川 浩一郎／中馬 輝彦／山内 聡胤
 山下 大介／米盛 司郎

後援会の結成について (設立趣旨 昭和54年)

戦災によって焼亡した鹿児島、人心も文化も荒廃しきった郷土、そこに不死鳥のように羽ばたいて前人未到のクラシックばれえを営々と開拓して三十年、いまでは、日本最高水準の文化庁芸術祭に参加するまでに成長した白鳥バレエ団、その白鳥門下からはすでに何千人ものバレリーナが巣立っています。

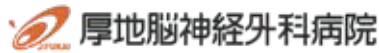
こうして、白鳥さんはバレエですでに「地方の時代」を築き上げつつあります。この事は、鹿児島県の文化にコウコウと灯台の火が輝いているようなものです。白鳥バレエ団の創設三十周年にあたり、私たちは、この郷土の文化の光を一段と育てあげるために、白鳥さんをはげまし協力する後援会を結成したいと存じますので、有志各位の会員加入をぜひお願いしたいと存じます。なにとぞふっつてご参加ください。

昭和五十四年八月吉日
白鳥みなみ後援会発起人一同

【発起人】

有馬 純次	鹿児島女子大学学長	塩満 春帆	鹿大人課
有馬万里代	鹿児島オペラ協会会長	管 政春	加根又社長
有山 長佑	長太郎焼	末吉 純孝	鹿児島漬物社長
有村 勝廣	青柳社長	副島 敏靖	副島ゴム社長
岩崎與八郎	商工会議所会頭	鷹野 孝徳	鹿児島銀行頭取
今村源一郎	今村病院理事長	保 直次	城山観光社長
今村 知子	いずみ調理学院院長	武田忠喜秀	鹿児島女子短大教授
岩元はるえ	ソロプチミスト会長	高山 義則	高山病院院長
犬伏しづえ	高島屋開発会長夫人	寺園 勝志	県社会福祉協議会会長
大坪 静夫	鹿児島テレビ放送社長	寺脇 保	鹿大医学部教授
沖野秀一郎	沖野病院院長	東郷 哲郎	湖上印刷社長
岡元 信吉	岡元病院	永田 到直	鹿児島信用金庫理事長
小里 貞利	鹿児島県議会議長	長島 公佑	長島商事社長
鎌田 要人	鹿児島県知事	中村 俊一	中村病院院長
金丸 三郎	参議院議員	西野 憲保	ニューニシノ社長
川越 政則	南日本新聞社社長	中拂 一則	鹿児島市教育長
川村 卓也	鹿大医学部教授	島中 季隆	南日本放送会長
川上 純二	鹿児島市立美術館長	林田 正一	林田産業交通社長
川上 南溟	鹿大教育学部教授 (書道家)	馬場休太郎	三和産業社長
上城 恒夫	評論家	馬場 英一	島津興業社長
笠井 純一	県議会議員	平瀬 実武	元鹿児島市長
川崎 恭子	川崎フラワー	東 純一郎	東美容室専務
小牧 才二	小牧建設会長	福田 正臣	市立病院内科部長
五代 夏夫	作家	福田 敏之	南日本放送副社長
佐藤 甫	県小型映画協会会長	藤 茂喜	藤絹織物専務
佐多 宗二	県商工会連合会会長	辺見 京子	俳人
相良 吉勝	相良病院院長	堀之内孝子	鹿児島テレビ放送
志賀 フヂ	実践学園理事長	山之口安秀	鹿児島市長
四蔵 典夫	県文化センター館長	山根銀五郎	県文化協会会長
新宅 フヂ	新宅商事社長	山元 謙一	山元歯科院長

設立当初の後援会 アーカイブ



株式会社 いろはの木

一般財団法人
岩崎育英文化財団

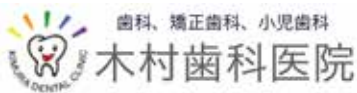
医療法人 雅美会
江川耳鼻咽喉科



鹿児島 サンロイヤルホテル



鹿児島トヨタ自動車株式会社



有限会社 グリンエスコ



光学堂





HIGO ARCHITECTS INC.
architect planning and design

Hisanaga 株式会社久永



株式会社文化社



Living
南日本リビング新聞社



LIFE FACTORY

個人会員

有村 博康

窪田 いづ子

中尾 竜馬

古川 雄三

粟 博志

熊副 穰

中島 綱子

外西 壽鶴子

飯千 紀代子

黒野 祐一

永田 陽子

前田 芳實

池川 直

小園 弘巳

中野 成博

前屋敷 和宏

池口 豪泉

斉之平 和夫

野ヶ峯 勇

松下 慎子

池田 真実

坂口 恵子

野中 謙三

松島 裕恵

石踊 政昭

相良 正子

畠中 史子

松元 哲郎

伊地知 雅榮

佐土原 領子

濱田 隆弘

真辺 ひとみ

伊部 朋子

志賀 玲子

原口 浩一

南 しんぼう

江川 さおり

下吹越 桂史

原田 理幸

八ヶ城 美保子

柿木 育子

杉安 ひろみ

平峯 靖也

吉井 典子

川内 博史

高尾 ひさ子

福本 出

米澤 傑

木下 麗子

武田 靖博

藤崎 典子

米盛 公治

清川 良子

千葉 晋平

淵脇 弘子

若松 博文

楠元 慶明

辻原 なるみ

古川 明子

渡辺 陽子



美しき森、美しき時

美しき神々の舞 PASSION



2023年2月28日公演

神話から現代を繋ぐメッセージ
や現代へ生まれ変わる神々の魂
をダンス・和太鼓・歌・語り、
そして、世界的ファッションデザ
イナーコシノジュンコの衣装で見
せる特別企画（於 城山ホテル）

コシノジュンコ先生が衣裳のスペシャルディナーショー無事終演。
神話を題材に綴られた物語は、演劇、舞踊、音楽が盛り込まれた
もので、城山ホテル鹿児島もその日限りの異空間に。たくさんのお
客様にご来場頂き、本当にありがとうございます。私もコシノ先
生の衣装の個性と美しさに圧倒され、それを生き生きと纏って表
現するというまたとないチャンスに恵まれました。鹿児島からまた
この特別なショーの歴史が刻まれます。(白鳥五十鈴)

ダンス	西島 敦博
バレエ	白鳥 五十鈴
衣装	コシノ ジュンコ
女優	柴田 美保子
舞踏家	浅野 瑞穂
ヴォーカル	日野 真一郎
和太鼓	佐藤 健作



※左から浅野瑞穂、日野真一郎、白鳥五十鈴、コシノジュンコ、西島敦博、佐藤健作、柴田美保子

© ばび



白鳥バレエ

PHONE : 099-222-6536

〒892-0841 鹿児島市照国町12-12 2F

【サテライト教室】

■敬愛教室	〒892-0846 鹿児島市加治屋町 5-6 敬愛幼稚園内
■谷山教室	〒891-0108 鹿児島市中山 1 丁目 6-1 つばき幼稚園内
■セイカ AMU 教室	〒890-0053 鹿児島市中央町 1-1 セイカスポーツクラブ AMU 店内
■セイカ宇宿教室	〒890-0073 鹿児島市宇宿 2-18-27 セイカスポーツ宇宿店内
■始良教室	〒899-5431 始良市西餅田 364-1 イオンタウン始良店内

【照国町スタジオ】





est.1949

www.shiratori-ballet.com



website



facebook



instagram



LINE



YouTube